



フィジカルアセスメントを活用して多職種連携を進めよう

多職種連携チーム医療の中では、フィジカルアセスメントという共通言語を使って患者の病態を共有しています。本講座では、バイタルサインの基本と、医師、看護師、薬剤師のフィジカルアセスメント目的の違いを知り、実症例から問診、検査、診断、治療の流れを学び、処方設計につなげます。

開催日程 2019年4月21日(日) 10:00～16:00

開催場所 京都薬科大学 愛学館 3階 A31講義室

定員 100名 **受講料** 5,000円

認定単位 3単位 京都薬科大学認定単位G24

申込受付 2019年2月20日(水)～4月8日(月)

申込方法 ホームページよりお申込みください。
<https://skc.kyoto-phu.ac.jp/>

講師	JCHO京都鞍馬口医療センター	血液内科 医師	淵田 真一 先生
	京都薬科大学 病態生理学分野 臨床薬学教育研究センター	がん看護専門看護師 准教授 医師 講師 薬剤師・救急救命士	門田 典子 先生 細木 誠之 先生 今西 孝至 先生

時間	プログラム
10:00 -12:00	【I】フィジカルアセスメント総論～医師・看護師・薬剤師のフィジカルアセスメントの目的を知ろう～ 1) 医師のフィジカルアセスメント 病態把握のための問診の仕方とポイント 2) 看護師のフィジカルアセスメント 家族的背景、社会的背景を含む情報収集の仕方とポイント 3) 薬剤師のフィジカルアセスメント ・薬の適正使用につながるフィジカルアセスメント ・バイタルサインを測定する簡易な医療機器の使用法 4) まとめ 多職種の共通言語「フィジカルアセスメント」を薬剤師も行う
13:00 -15:50	【II】疾病の基礎～患者が示すバイタルサインと症候から処方を提案してみよう～ 1) よくみる症候から診断・治療への考え方 ・医師はこう考える「症候学の理論」 ・臨床推論力を身につけよう「見て触れるだけで、ここまでわかる患者の状態」 ・看護師はどこに注目する「症状別看護」 2) <SGD>症例検討から処方設計へ
15:50 -16:00	全体を通しての質疑応答、講評

※プログラム内容等は変更される場合があります。

